

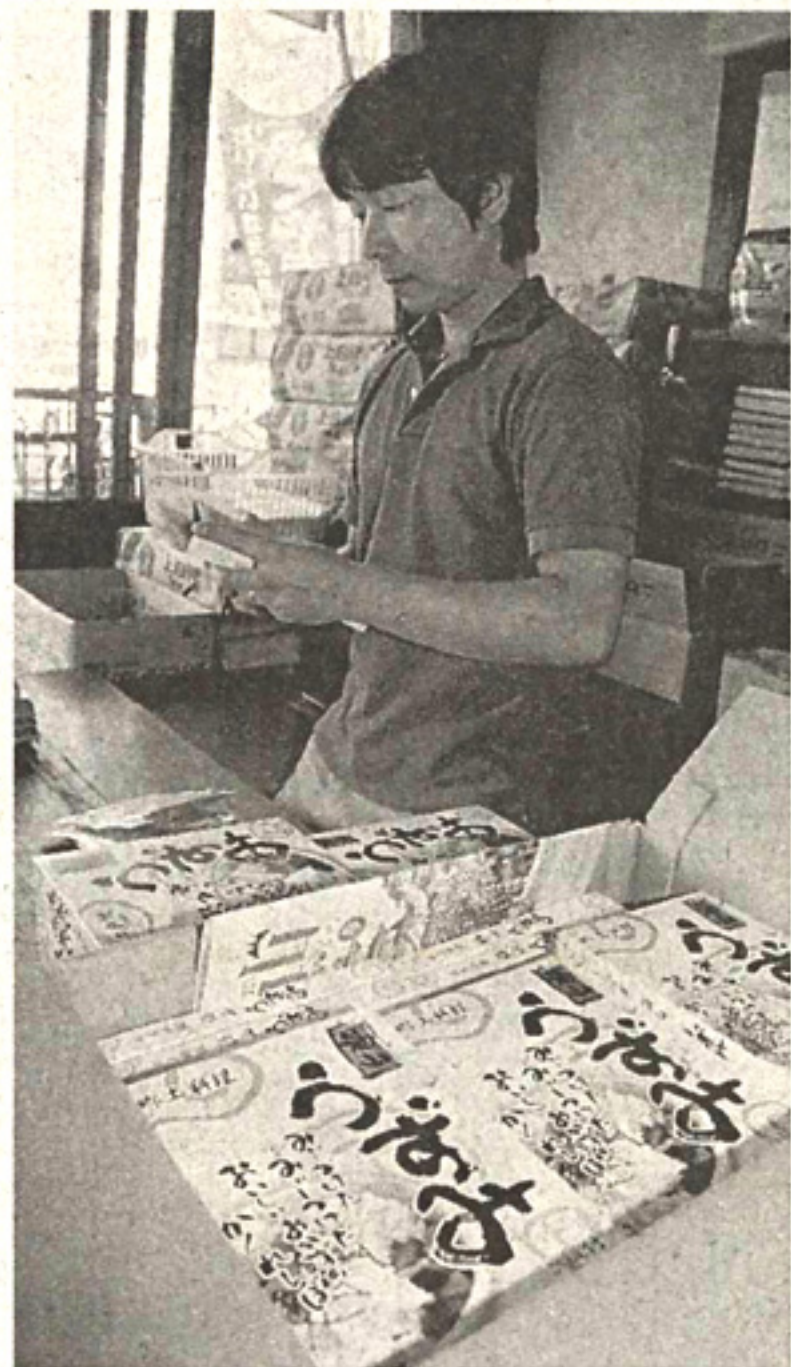
福山市は7日、福山の郷土料理「うずみ」をレトルト食品に加工した「福山うずみごはんセット」270食を、東京電力福島第1原発事故で役場ごと避難している福島県飯舘村に向け、発送した。避難先の福島市飯野町の商工会を通じ、村役場に届ける。

福山市 原発事故避難の福島・飯舘村

うずみごはんは、備後地域の食品業者ら約20社でつくる「備後特産品研究会」(中島基晴会長)が開発した。東日本大震災の被災地支援に役立ててほしいと、6月に福山市に300食を寄贈した。市は送り先を探していたが、ふくやま福島県人会の紹介で飯野町商工会を通じ、飯舘村に送ることが決まった。

この日は中島会長が経営する中島商店(同市御船町)で段ボール箱への詰め込み作業があった。商品とともに、羽田皓市長からのお見舞いの手紙なども添えられた。詰め込みを終えた段ボール箱は夕方発送され、9日午前には現地に到着する予定。中島会長は「一日も早い復旧、復興に少しでも役に立てたらうれしい。保存食でもあるので、いろいろな場面で食べてもらえると思う」と話した。【高山梓】

「うずみ」270食被災地へ



福山うずみごはんセットを段ボールに詰め込む中島商店の従業員 ー福山市御船町で